

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

(仮称)小町ビル新築工事

CASBEE-広島 (2010年ver.1)

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

配 慮 項 目	評価点	重み係数	内 訳					
<b>■ 1. 「地球温暖化対策」の推進</b>								
<b>1.1 建物の熱負荷抑制</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 外皮に断熱材を採用することで建物の熱負荷を抑えている。	4.0	0.13	Q1	室内環境	2	2.1 室温制御	3	外皮性能
	4.0	0.87	LR1	エネルギー	1	建物の熱負荷抑制		
小計	4.0	0.18						
<b>1.2 自然エネルギーの利用</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	2.1 自然エネルギーの直接利用		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	2	2.2 自然エネルギーの変換利用		
小計	3.0	0.11						
<b>1.3 設備システムの高効率化</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明の採用	5.0	1.00	LR1	エネルギー	3	設備システムの高効率化		
小計	5.0	0.16						
<b>1.4 設備システムの効率的運用</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	4.1 モニタリング		
	3.0	0.50	LR1	エネルギー	4	4.2 運用管理体制		
小計	3.0	0.11						
<b>1.5 資源・マテリアル対策</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 事務所にOAフロアを採用	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	1.1 節水		
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	1	1.2 雨水利用・雑排水再利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	1	1.2 雨水利用・雑排水再利用	2	雑排水再利用システム導入の有無
	2.0	0.06	LR2	資源・マテリアル	2	2.1 材料使用量の削減		
	3.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	2.2 既存建築躯体等の継続使用		
	3.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	1.0	0.16	LR2	資源・マテリアル	2	2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.04	LR2	資源・マテリアル	2	2.5 持続可能な森林から産出された木材		
	4.0	0.19	LR2	資源・マテリアル	2	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		
小計	2.8	0.31						
<b>1.6 ライフサイクルCO2排出率</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 設備の高効率化による	4.8	1.00	LR3	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮		
小計	4.8	0.13						
<b>1. 「地球温暖化対策」の推進の評価</b>								
	3.7	0.71						
<b>■ 2. 「ヒートアイランド対策」の推進</b>								
<b>2.1 温熱環境の向上</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.49	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出		
	1.0	0.24	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上
	2.0	0.27	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.2	温熱環境悪化の改善
小計	1.3	0.96						
<b>2.2 交通負荷抑制</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 駐輪場・駐車場設置	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計	3.0	0.04						
<b>2. 「ヒートアイランド対策」の推進の評価</b>								
	1.3	0.18						
<b>■ 3. 「長寿命化対策」の推進</b>								
<b>3.1 耐用性の向上</b>								
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 内装材の建材は耐用年数の長いものを採用	3.0	0.47	Q2	サービス性能	2	2.1 部品・部材の耐用年数	1	耐震性
	3.0	0.12	Q2	サービス性能	2	2.1 部品・部材の耐用年数	2	免震・制振性能
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	5.0	0.09	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	5.0	0.04	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.03	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.06	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.09	Q2	サービス性能	2	2.2 部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔
小計	3.4	0.70						
<b>3.2 設備の更新性</b>								
(コメント) ※設計の計画・上特段に配慮した事項を記載してください。 主要配管材は耐用年数の長いものを採用	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.17	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	2	給水配管の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.11	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.22	Q2	サービス性能	3	3.3 設備の更新性	6	バックアップスペース
小計	3.0	0.30						
<b>3. 「長寿命化対策」の推進の平均点(上記2項目)</b>								
	3.3	0.10						
<b>■ 重点項目の総平均(上記3項目)</b>								
	3.2							